

1/1

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな) いのうえ だいすけ 井上 大介		[REDACTED]	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) もり ゆきお 森 幸雄		創価大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
フィールド調査実習	SOKa-170602-2	4 名	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

サーベイ調査実習は学生による能動的な行動により実施された。受講者は比較的少人数であったため、相互協力は不可欠であったが、調査における協力は予想以上に行われ、たいへん効果的な実習となったと思われる。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：
東京都内の移民居住地区の生活を「福祉」「宗教」「教育」「家族」「人権」などの角度から記述する。
2. 調査の内容／概要：
参与観察、インタビューなどによる他者理解
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：
社会対象者の活動拠点や生活拠点を足を運ぶなかで、適当と思われる対象者を選定した。
4. 主な調査項目：
生活環境、宗教儀礼、自らの文化に対する自己認識、日本社会との関係認識。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：
参与観察、インタビュー
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：
2017 年秋。八王子・福生。4 名。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：
最終的には、学生それぞれの問題関心に沿ったものとしてまとめられたが、それぞれの調査におけるインタビューは、人数や内容については短時間におけるものとしてよくできている。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：
それぞれの文化のあり方に即した行動理解を基本とし、より大きな社会関係の文脈で解釈している。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：
宗教領域の調査から、韓国人・タイ人の牧師・僧侶が社会生活に与える影響の大きさが再確認された。また 日本社会の関わり方の差異に出身地の文化の影響の強さの再確認された。
10. 報告書刊行の予定と概要：
学内限定の資料として報告書を作成するが、報告書は公表しない。なお、添付している資料が報告書である。